

ちゅうおう

<地区人口と世帯数>

男 18,980人 女 20,482人
計 39,462人
世帯数：20,923世帯
(12月1日現在)

2023

1月号

【編集発行】

福島市役所広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎525-3710 ☎536-9828

市からのお知らせ

『すずらんフェスタ』を開催しました

11月12日、「共創のまちづくりWorkshop」「中央東地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会」「大学生ボランティア」の共創事業として「すずらんフェスタ」を開催しました。

このイベントは、共創のまちづくりWorkshopに参加いただいた市民の皆さんを中心に企画、検討を行い、回遊性の向上や街なか活性化を目的として作り上げたものです。

当日は、まちなか広場、信夫山駒山公園、まちなか交流施設ふくふるを会場に、ウォークラリー・食の祭典・パネル展を同時開催し、多くの方にご来場いただきました！

■問/地域共創課 ☎525-3731



※「すずらんフェスタ」開催にあたり、中央東地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会に交付された「健康づくりで競争(共創)チャレンジ交付金」を事業費の一部として活用させていただきました。

第10回

花によるおもてなし事業を開催しました

11月19日、「中央東地区ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会」の主催事業として、今回で10回目となる「花によるおもてなし事業」を開催しました。

この事業は、街なかに花を植栽したプランターを設置し、地区の魅力をもっと多くの人に発信することで、中心市街地の活性化につなげようとするものです。

当日は、まちなか広場を会場に約70人の方にボランティアとして参加いただき、交流を図りながら花植え作業を行い、完成したプランターをレンガ通りと駅前通り沿いの事業所前に設置させていただきました。

街なかへお出かけの際は、ぜひ、ご覧ください！

■問/地域共創課 ☎525-3731



地区内の工事情報

工事箇所	工事種別	予定工期		備考	担当課
		着工	完了		
市道天神町・三河北町線	道路側溝修繕	令和5年1月中旬	令和5年3月中旬	午前9時～午後5時 片側交互通行	道路保全課

中央学習センターからのお知らせ

【編集】福島市中央学習センター
〒960-8018 福島市松木町1番7号
☎534-6631 ☎533-7592

謹賀新年

皆様にとってますます充実した一年となりますよう、心よりお祈りいたします。
本年も中央学習センターをよろしくお願い申し上げます。

受講生募集!

ICT活用セミナー パソコン集中講座

お家で便利なExcel(エクセル)に挑戦してみませんか!

初級編

～初心者の方やレベルアップを目指す方、大歓迎～

●日時 2月9日(木)・16日(木) 午前10時～12時(予定) ※全2回

●場所 中央学習センター 第5講義室

●内容 Excel(エクセル)を使い、文書やグラフを作成します。
○名簿の作成(連続データ入力、並び替え、フィルターによる抽出など)
○ウォーキング管理表の作成(表計算の基礎、グラフ作成など)
※印刷は行いません

●講師 パソコンスクールPeaCh 吉田かおり先生・高橋あゆみ先生

●対象者 ・中央地区在住の一般成人の方で、マイクロソフト社製Excelがすでに入っている
ノート型パソコン(Windows)をお持ちの方で、当日持参できる方
・初歩的なパソコン操作(文字入力、マウス操作)ができる方

●定員 10名(先着順)

●参加費 1,800円(テキスト代等)

●準備物 ノート型パソコン(Windows)、マウス、筆記用具等

●申込み 1月11日(水)から2月1日(水)の間に①掲載QRコードよりオンライン・②中央学習センター窓口・③電話による①～③のいずれかの方法で申し込みください。電話での申し込みは1月12日(木)より受け付けます。電話・オンラインでの申し込みの場合、参加費は当日持参してください。
・受付時間 午前9時～午後5時45分(休館日(火曜日)を除く)



【申込QRコード】



「まなびいガーデン」苗植えを行いました!

11月26日(土)、市民学校「花のまちガーデニング教室 冬花の寄せ植え」にご参加いただいた皆さんと、中央学習センター東側花壇の苗植えを行いました。

皆さんのご協力により、素敵な花壇ができあがりまして、中央学習センターにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。



令和やさしい地元学

信夫野・歴史の細道 第22回

ふくしまけん歴史の案内人の会
(元福島県遺跡の案内人の会)

会長：紺野義行氏

政宗、会津制覇

伊達政宗の時代、伊達家は奥州一の武家の地位を公に定めていた。曾祖父祖禰宗(14代)は陸奥国守護職に任ぜられ、藤原秀衡の陸奥守任命以来のことと称された。祖父晴宗(15代)は奥州探題に任ぜられた。戦国時代慣習的に伊達家はその探題であるという伝統は続いた。一方、会津芦名の勢力は16世紀後半絶頂に達した。芦名盛氏(16代)の代で70万石とも云われたが、その後3代にわたって不幸が続き、芦名の血は絶えた。その後白河城主になっていた結城白河義広を養子に迎え、芦名20代目芦名義広で天正15年(1587)3月会津の黒川城に入った。

米沢城主の伊達政宗(17代)は、以前から会津攻略を狙っていた。そのころ、陸奥国南部は政宗と佐竹・芦名氏が激しく対立していた。この両勢力の境目が郡山付近である。郡山には片平城主片平親綱があり、その去就は両勢力にとって重要な意味を持っていた。親綱は大内定綱の弟で、兄の定綱は小浜城主で政宗と敵対していたが、大内氏家臣の苅松田城主青木修理の寝返りにより天正16年(1588)4月に政宗に服属した。その後政宗は芦名・佐竹氏に対して手切れをするという親綱の約束に呼応して米沢を出陣し、郡山の安子島と高玉の二城を攻略した。政宗の大軍の迫った猪苗代の猪苗代盛国も決断を迫られた。捨て身の決断は、芦名を裏切って伊達に付くという結果になった。猪苗代盛国が内通すると言ってくると、政宗は時をおかずに会津攻めを命じた。政宗は、天正17年(1589)6月、会津を目指して南下してきた。芦名義広はこれを磐梯山の麓、摺上原で迎え討つ。両軍併せて5万の軍勢の激突だったが、蘆名方は敗れ、政宗は大勝利を納めた。ここでも裏切者が出たのが致命的だった。芦名義広は、城も領地も失い、実家である水戸の佐竹氏のもとに落ち延びていく。摺上原の戦いの翌年正月の祝いを、政宗は会津黒川城で迎えた。

正月には連歌をつくるのが伊達家の慣例になっており「七種を 一葉に寄せて つむ根芹」と詠み、白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達・信夫の仙道七郡を一身に収めたことを祝ったのである。



会津磐梯山

新型コロナウイルスの影響により、講座の内容が変更・中止になる場合がございますのでご了承ください。